

# ひらか 連携ニュース

当室では、毎年、「地域医療連携セミナー」を年1回開催し、当院から在宅へ移行した患者さんの事例を通して、医療・介護における多職種連携の具体的な方法や患者さん・ご家族が望む在宅療養支援のあり方について検討を行っています。  
今回は、地域医療連携セミナーについてご報告いたします。

## 地域医療連携セミナー開催！

日 時：平成28年11月4日（金）  
場 所：平鹿総合病院 講堂  
テ ー マ：「終末期にあるがん患者の在宅療養支援 ～咽頭がん独居男性の事例を通して～」  
参加職種：医師・薬剤師・保健師・看護師・訪問看護師・理学療法士・ケアマネジャー・施設管理者・行政担当者等  
参 加 者：110名

### 発表者

1. 家族のサポートが得られない頭頸部癌患者に対する地域連携の有効性  
平鹿総合病院 耳鼻咽喉科科長 齊藤 隆志先生
2. 終末期医療について考える～Tさんを通して～  
醍醐クリニック 院長 無江 昭子先生
3. ソーシャルワーカーとしての関わりを振り返る  
平鹿総合病院 ケースワーカー 中田 琢也さん
4. 本人が望む場所で過ごすために  
JAふるさとケアプランセンター 高橋 幸さん
5. 最後は「家」で～在宅の看取りを支援して～  
JAふるさと訪問看護ステーション 堀江 良子さん



今年度のセミナーでは、これまでのアンケートで希望の多かった「退院支援の困難事例」をテーマに選びました。今回のキーワードは「がん終末期」「独居男性」「生活困窮者」です。

事例の患者さんは66歳の男性で、諸事情により経管栄養のまま急な退院となりましたが、行政や在宅療養を担当するスタッフの献身的な支援により、最期まで自分が望むご自宅で、過ごすことができました。しかし、院内・外の連携の不足や経済面での社会的支援の遅れなど、多くの課題が抽出されました。

本事例での学びを今後の在宅療養支援に活かし、院内連携の強化による社会的問題への早期対応、患者・家族の思いや病状・介護力に応じた退院支援に努めていきたいと思っております。



### アンケート結果

- ・自分のことを理解してくれた在宅医に最期を看取ってもらえたこと、本人は幸せだったと思います。
- ・多職種が連携した最高に心のこもった関わりに感激しました。
- ・今後、ますます在宅で最期を迎える人が増えると思います。ケアマネとしてできることをがんばりたいと改めて思いました。
- ・独居でターミナルを自宅で過ごすには、お金がかかるという意見があり、もっと早い段階で生保の申請をすれば医療費の負担を減らせたのではないかと。

